



エネルギー起源CO2排出削減技術評価・検証事業 (3R技術・システムの低炭素化促進検討・実証事業)

平成28年度予算(案)
500百万円(500百万円)

事業目的・概要等

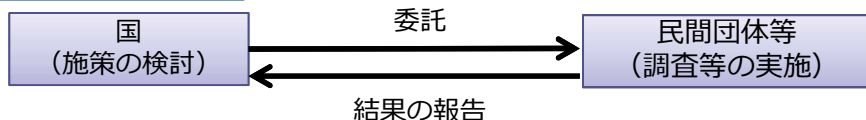
背景・目的

- 3R (リデュース・リユース・リサイクル) の推進は、天然資源の消費を抑制し、循環型社会の形成に資するだけでなく、CO2排出削減や社会システム全体のコストダウンにも効果的であることも多い。
- 低炭素・循環・自然共生が統合的に達成された社会の実現のためには「低炭素型3R技術・システム」を積極的に導入していくことが極めて重要であるが、その実現可能性や削減効果については十分な検証がなされていない。
- このため、大幅なCO2排出削減が期待できる3R技術・システムについて、その普及拡大に向けて有効性を検証するための実証事業を行う。

事業概要

低炭素型3R技術・システムのCO2排出削減効果、削減ポテンシャル及び事業性を検証するための調査・実証事業

事業スキーム



委託対象：民間団体
実施期間：3年間（平成26年度～平成28年度）
委託費：一件あたり3,000万円から8000万円程度を想定

期待される効果

- 国が低炭素型3R技術・システムの事業性やCO2削減効果の検証を行うことにより、有望な技術・システムの自発的な普及を推進し、平成32年度には民間投資による48000tonCO2/年程度の温室効果ガス削減を目指す。
- また、技術・システムの普及により、リユースや高度なリサイクルが進むことで国内循環産業の競争力強化、天然資源の輸入量の低減による貿易収支の改善、地域資源循環による地域活性化につながることを期待される。

イメージ

- ・3R分野でのCO2削減の取組が不十分
- ・3R技術・システムのCO2削減効果の検証も不十分

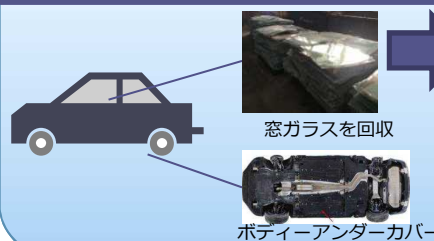
調査・実証を通じて、CO2削減効果に加え省エネ・省資源効果等も明らかになり、コストメリットが顕在化

- ・メリットが認知され、社会への導入が加速化
- ・結果に応じて、規制・制度的な対応や補助金等による支援も視野

<調査・検討が必要な技術・システムの例>

- リサイクルガラス活用によるガラス製造の省エネ化
建築物、自動車等のガラスを分離・回収し、カレットとして原材料に用いることでガラス製造プロセスを省エネ化するモデル事業を実施。
- リユース部品の利活用促進
新品に比べて低コスト・CO2排出削減効果の高い自動車部品等のリユース促進や、リユース部品活用による低コスト再生可能エネルギー設備を実証。
- 使用済再生可能エネルギー設備のリユース・リサイクル・適正処分
再エネの導入拡大に伴って生じる使用済再生可能エネルギー設備の撤去・運搬・リサイクル等についての検討・実証を実施。
- 廃家電等のリサイクルプロセスの高効率化・省エネ化
廃家電等について、メーカーによる処理工程の高効率化とそれをふまえた環境配慮設計による省エネ化について検討・実証を実施。
- 黒色プラスチック等の高度選別による未利用資源の有効利用
自動車等に含まれる黒色プラスチック等のこれまで選別が困難で焼却処分されていた未利用有機物のマテリアルリサイクル・エネルギー利用のための高度選別を実証。

自動車リサイクルによるCO2削減のポテンシャル



未利用の廃ガラスを有効活用できれば、**ガラス製造プロセスの省エネが可能。**

未利用の黒色プラを有効活用できれば、**プラ製造プロセスの省エネ又はエネルギー代替が可能**